



池田旗山の神舞

48種類あったといわれる池田旗山の神舞は、一時途絶えたため現在10種しか残っていません。服装は陣羽織りのようなものに袴をはき、白たびを着用。木彫りの面をかぶって太鼓、笛、鐘の音色に合わせて自分で口上を述べながら舞います。舞の種類によって2mほどのツノブキと呼ばれる棒や、長刀、弓矢などを使います。

10代の女児が舞っていた「神姫・ひめまい」も復元できず途絶えました。昭和39年の鳥居立てで舞った記録が残っています。



復活させ、後世に継承すること

28年間途絶えていた神舞の復活を願い、立ち上がった有志たち。会則に記された保存会の目的は、伝承できる者が元気なうちに、

感謝の思いは受け継がれている

山の神に仕える舞で、四方八方の悪魔を射りはらうために大弓大矢を用いて天下を平定された舞として伝えられています。東西南北の天に向けて矢を射る所作が特徴。神舞のなかでも特に荒々しく豪快で、「山の神」で始まる口上と舞が見どころ。

やまのかんきじん
山神鬼神



「霧島の御池の深さは誰ぞ知るらん／ほうこうのしたたれより一つの島が出現す」と口上を述べて舞う霧島鬼神。鬼神が手に持つ鉾で海を混ぜる仕草が表現され、その鉾から滴り落ちる水滴から神により島々が作られていく状況が、口上とその動きから連想できます。

きりしまきじん
霧島鬼神



神舞の起源とされる天岩戸伝説を表現している多力鬼神。太陽の神とされる天照大御神を手力男が洞窟から連れ出すことで、地上に日の光を取り戻すという物語を神舞で表現しています。旗山の神舞では岩戸を押さずに割って連れ出す動きが特徴です。

たちからきじん
多力鬼神



このほかに、長刀舞、しば鬼神、鬼神舞、吉野かんじ、矢抜き鬼神、四人鬼神、田の神舞の全10種

ひとつでも多くの舞を復元する

神舞が最後に奉納されてから28年経った平成4年、地域から復活を望む声が上がります。「日常として当たり前の存在だったのでしょう。祝い事など節目ごとに舞われる神舞を求める声は多かったように記憶しています」と当時を懐かしむ重敏さんは、神舞の復活と継承に向けて保存会の立ち上げに動き出します。ここで問題となったのが記憶をたどりながらの復元作業でした。もちろん動画などありません。昔、舞ったことのある50代から60代に指導を仰ぎ、

現在10種の舞が引き継がれています。厳かに、ときに荒々しく舞われる旗山の神舞ですが、鹿兒島弁の方言で口上を述べながら滑稽に舞う田の神舞は、池田旗山特有の神舞と言えるでしょう。

神舞存続の危機が訪れる

大根占町誌によると、かつては48種の神舞があり、昔は神社の鳥居立ての際など、境内で終日かけて舞っていたそうです。昭和2年には出生を祝って池田小学校の校庭で舞ったとされる記録も残されていることから、100年ほど前は神舞が日常として行われていたことがうかがえます。笛や太鼓に楽譜はなく、歌と呼ばれる口上もすべて口伝による継承。しかし、昭和39年に旗山神社の鳥居立てで奉納された以降、神舞が舞われることはありませんでした。

神舞保存会 初代会長 前迫 重敏さん

昭和39年以降、28年間途絶えていた神舞を復活させようと尽力。「池田旗山の神舞を復活させる会」を立ち上げ保存会を設立し初代会長を務めた。口伝のみで伝わる神舞10種を復元させ今に伝えている。8年前の奉納は鐘を担当した。池田川南在住の86歳。

神舞の歴史

1927年【昭和2年】

池田小学校の校庭で生誕を祝って舞う

1964年【昭和39年】



11月1日の鳥居立てで奉納
昭和39年の鳥居立ての際には、48種の神舞が終日かけて舞われたと伝えられています。一目見ようと訪れた多くの見物客を前に、勇ましく力強く奉納されました。

1992年【平成4年】



奉納に向けて練習する保存会
28年間途絶えていた神舞を有志による「復活させる会」が復元して継承がスタート。平成6年には保存会が発足し、町文化センターのこけら落としにも出演しました。

1992-2013/21年間

2013-2021/ 8年間

2013年【平成25年】



平成4年に復活し不定期ながらも21年間続いた神舞。しかし、平成25年11月に旗山神社の社殿で奉納された新嘗祭の舞を最後に8年間休止。地元からは神舞再開を望む声も聞かれます。

2021年【令和3年】



池田小の児童による伝統芸能継承に向けた取り組みとして、5・6年生の児童5名が神舞に挑戦。舞い手以外の6名は、使用するツノブキ作りや歴史調査を行い学習発表会で発表しました。